

5. 給食

【学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル（令和2年6月16日）】（抜粋）

3. 給食

学校給食を実施するにあたっては、「学校給食衛生管理基準」に基づいた調理作業や配食等を行うよう改めて徹底してください。給食の配食を行う児童生徒及び教職員は、下痢、発熱、腹痛、嘔吐等の症状の有無、衛生的な服装をしているか、手指は確実に洗浄したか等、給食当番活動が可能であることを毎日点検し、適切でないと認められる場合は給食当番を代えるなどの対応をとります。

また、児童生徒等全員の食事の前後の手洗いを徹底してください。会食にあたっては、飛沫を飛ばさないよう、例えば、机を向かい合わせにしない、または会話を控えるなどの対応が必要です。

（1）基本的な考え方

障害のある児童生徒等は、手洗いやマスクの着用の徹底が難しい場合や食事や歯磨きの際に介助が必要な場合があります。また、食堂等で複数学年の児童生徒等が同時に給食を取る場合があります。配膳や食事の際の感染リスクを低減するための分かりやすい指導を行うとともに、補助や介助を行う教職員自身の感染を防止するための取組も必要です。

（2）考えられる取組

（配膳）

- ・ 教室で給食を取る場合、可能であれば配膳を予め教職員が行い、児童生徒等が配膳を行う場合は、教職員が配膳係の児童生徒等の手洗いやマスク着用を確認する。
- ・ 配膳、給食前に、給食の介助を行う教職員及び当該児童生徒等に対し、石けんと流水による手洗い等の実施を徹底させる。
- ・ 食堂利用や食事時間の割り振りを決め、食堂の混雑を避けたり、各教室で少人数で食べたりする。
- ・ 食堂で配膳台に並ぶ際や下膳の際に、間隔を空けて並ぶよう指導する。

（食事中）

- ・ 食堂利用や食事時間の割り振りを決め、食堂の混雑を避けたり、各教室で少人数で食べたりする。
- ・ 食堂を利用する場合は、一定の距離を保ち対面にならないよう配席する。
- ・ むせやせき込みのある児童生徒等が他の児童生徒等と対面にならないよう配席する。
- ・ 配膳後すぐに食べない食事にはラップをかけておく。

(食事介助・歯磨き)

- ・ 介助者はマスクに加えフェイスシールド等により、口、鼻、目を覆う。
- ・ 食事や歯磨きの介助は可能な限り側面から行う。
- ・ 介助を交代する場合は、その都度手洗い（手指消毒）を行う。

(3) 取組例

○熊本県立黒石原支援学校

- ・ マスクと使い捨て手袋を着用した教職員が、一人一人のトレーに配膳しています。
- ・ 食事の介助を行う教職員は、手洗いをを行い、フェイスシールド・マスク・エプロンを着用しています。



○沖縄県立鏡が丘特別支援学校

- ・ 摂食指導・介助中にむせや咳き込みのある児童生徒等に接する教職員は、フェイスシールド・マスク・エプロンを着用して側面から対応しています。
- ・ フェイスシールドや透明マスクを手作りしています。



6. 寄宿舍

【学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル（令和2年6月16日）】（抜粋）

8. 寮や寄宿舍における感染症対策

学校の寮や寄宿舍における感染症対策については、本章までに述べた感染症対策を参照するとともに、一般社団法人日本旅館協会によって作成された「宿泊施設における新型コロナウイルス対応ガイドライン」（5月14日公表、同21日一部改訂）⁴も参考にしつつ、施設の規模や実情に応じて行ってください。また、登校前の健康観察についても、学校に協力して行うようにしてください。

（1）基本的な考え方

特別支援学校の寄宿舍は、児童生徒等の滞在時間が長く職員の目が届きにくいことがあります。特に、食事や入浴等で3つの密が重なりやすい場面のリスクを避ける取組が必要です。また、寄宿舍利用中に発熱等の症状が出た場合の対応を予め決めておくことが必要です。

（2）考えられる取組

※食事については5. 給食を参照

（利用人数の抑制）

- ・可能な場合は、空き部屋を利用したり、利用する児童生徒等をグループ（例えば、月・火グループと水・木グループ等）に分割したりする等により、部屋の利用人数や寄宿舍の利用人数を抑制する。

（入出寮時）

- ・入出寮時の密集を避けるため入出寮時間をずらす。
- ・入寮時の検温、手洗いを徹底する。

（諸活動）

- ・集会室に集まる活動等は控え、自習時間は食堂等も活用するなど、狭い空間に多くの児童生徒等が集まらないようにする。

（入浴）

- ・浴室や脱衣所を利用する時間をずらし、同時に利用する人数を絞る。

（消毒）

- ・手すりや冷蔵庫の扉など多くの児童生徒等が触れる箇所を定期的に消毒する。

⁴ <http://www.ryokan.or.jp/top/news/detail/298>

(居室)

- ・仕切りカーテン等がある場合は、居室を仕切って利用する。
- ・ドアノブなど複数人が触れる箇所は定期的に消毒を行うとともに、換気のためドアを開けたままにする。
- ・寄宿舎内での三密を避けた行動ができるよう、居室の訪問や利用方法などについてルールを決める。

(その他)

- ・児童生徒等による近隣のスーパー等での生活用品等の購入は、必要最小限にとどめ、人数を絞る等して計画的に行い、状況によっては保護者や指導員で対応する。
- ・発熱等の風邪症状がある児童生徒等が出た場合の対応について、予め保護者に共有しておく。

(3) 取組例

○山形県立山形聾学校

- ・寄宿舎の各出入り口に手指消毒用のアルコール等消毒液と体温計を設置し、保護者や来校者に手指消毒と検温をお願いしています。



○沖縄県立沖縄盲学校

- ・寄宿舎の食堂での密集を防ぐため、配膳は教職員が行い、居室の学習机で食事をとっています。



7. 居場所の確保・放課後等デイサービスとの連携等

【新型コロナウイルス感染症に対応した持続的な学校運営のためのガイドライン
(令和2年6月5日文部科学事務次官通知)】(抜粋)

③子供の居場所の確保

また、学校の一部を休業とする場合においても、分散登校に伴い、登校する児童生徒の兄弟姉妹である幼児や低学年の児童が自宅で一人になる場合が生じることも考えられるところであり、担当部局と相談し、地域全体としての子供の居場所づくりに配慮する必要がある。

その上で、子供の居場所確保に向けた人的体制の確保や学校の教室等の活用等を実施する場合には、一斉臨時休業期間中の対応として示した「新型コロナウイルス感染症防止のための小学校等の臨時休業に関連した放課後児童クラブ等の活用による子どもの居場所の確保について(依頼)」(令和2年3月2日付け文部科学省初等中等教育局長ほか連名通知)の例を参照した対応を行う。その際、以下の点には特に留意する。

・学校の教室等の活用

学校の臨時休業に伴い、放課後児童クラブ、放課後等デイサービスにおいて通常時より利用児童のニーズが高まることが考えられるため、密集性を回避し感染を防止すること等から、一定のスペースを確保することが必要である。

このため、教室、図書館、体育館、校庭等が利用可能である場合は、国庫補助を受けて整備した学校施設を使用する場合であっても財産処分には該当せず、手続は不要であり、積極的に施設の活用を推進する。

また、放課後等デイサービスについても、学校の臨時休業期間においては、放課後等デイサービス事業所が学校施設を活用してサービスを提供した場合でも報酬を請求することを認めるので、教室、図書館、体育館、校庭等が利用可能である場合は、積極的に施設の活用を推進する。

(1) 基本的な考え方

障害のある児童生徒等は、自宅等で一人で過ごすことの難しい場合や放課後等デイサービスを利用している場合があります。このため、臨時休業中や放課後の子供の居場所について、予め保護者等の関係者と情報共有を図ることが必要です。

(2) 考えられる取組

○居場所の確保

- ・分散登校を行っている期間等においても、校内に児童生徒等の居場所を確保し、授業時間以外にも校内で過ごせる場所を設ける。

○放課後等デイサービスとの連携

- ・分散登校等により下校時間が通常と異なる場合は、送迎が円滑にできるよう、予め放課後等デイサービス事業者とも下校時間を共有する。
- ・下校前に検温を行い、放課後等デイサービスの送迎者に伝える。発熱などがあり放課後等デイサービスで預かることができない場合は、保護者の迎えまで学校で対応する。

○業者等の学校への立入り

- ・業者等については、物品の受け渡し等は玄関など学校の限られた場所で行うことが望ましく、学校内に立ち入る場合については、体温を測定してもらい、入校時にはマスクを着用させること。発熱が認められる場合には入校を断ること。

(3) 取組例

○沖縄県立鏡が丘特別支援学校

- ・下校時に毎日行っている、学校看護師とデイサービス職員との申し送りについては、デイサービス職員が校内に入校せずに、窓から申し送りを行うことにしています。



デイサービスの皆様

医ケア申し送りはこちらです

〇〇さんの
申し送り
をお願いします



窓のこちら
をお願いします

窓の外より、学校看護師へ声をかけてください。
近くに職員がいない場合、呼び鈴を鳴らして呼びください。

※新型コロナウイルス感染症の対策であることにご理解いただき、

ご協力の程よろしくおねがいいたします*

8. ICT等を活用した家庭における学習

【新型コロナウイルス感染症に対応した臨時休業中における障害のある児童生徒の家庭学習支援に関する留意事項について(令和2年5月7日付け事務連絡)】(抜粋)

共通事項

- ・学校においては、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等、学校の臨時休業等の状況等を十分踏まえ、個別の指導計画等の精査や見直しを行うこと。特に、今年度から新たに特別支援教育を受ける児童生徒等について、個別の指導計画等を作成していない場合は、保護者等と連携しつつ実態を把握し、速やかに個別の指導計画等を作成すること。
- ・家庭における学習内容の提示や教材等の提供に当たっては、児童生徒や必要に応じて協力を求める保護者等にとって実施しやすい方法や留意すべき点等も合わせて分かりやすく示すこと。その際、次に示す障害種毎の家庭学習上の留意事項を参考にするとともに、必要に応じて、関係機関と連携し、児童生徒の学習への協力を求めること。
- ・学校は、家庭学習や生活面に関する児童生徒や保護者等からの問い合わせや相談についてきめ細かく対応できるよう、その連絡先・連絡手段等を具体的に示すとともに、児童生徒や保護者等とのコミュニケーションを積極的に行い、家庭等での状況を定期的に把握すること。特に、通級による指導の対象の児童生徒については、在籍学級の担任と通級による指導の担当教師が連携して対応すること。
- ・特に、医療的ケアが必要な児童生徒や基礎疾患等のある児童生徒については、児童生徒の健康状態や家庭の状況等を踏まえ、学習内容及び協力内容を慎重に検討すること。

(1) 基本的な考え方

学校再開後も引き続き家庭学習は重要です。また、今後、感染の状況により設置者が臨時休業措置をとる可能性もあります。これまでの臨時休業中の状況を振り返り、学校の授業とICT等を活用した家庭における学習をスムーズにつなぐための準備を予め行っておく必要があります。

(2) 考えられる取組

(協力を求める保護者等に対する分かりやすい説明)

- ・家庭における学習内容の提示や教材等を提供する際に、保護者等が実施しやすい方法や留意すべき点等も合わせて分かりやすく示す。
- ・家庭学習や生活面に関する児童生徒等や保護者等からの問い合わせや相談についてきめ細かく対応できるよう、その連絡先・連絡手段等を具体的に示すととも

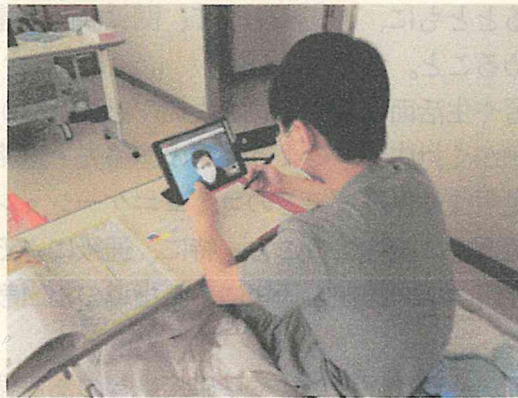
に、児童生徒等や保護者等とのコミュニケーションを積極的に行い、家庭等での状況を定期的に把握する。

- ・実技教科についてもオンラインで家庭とつなぎ、指導計画に基づいて専科の担当教諭が実技演習等をしながら対話を通して実施する。

(3) 取組例

○千葉県立四街道特別支援学校

- ・臨時休業中は、週1回のプリント等の配布に加え、学級ごとにIDとパスワードを送付し、学校ホームページから、学級ごとの課題や動画を視聴できるようにしました。また、普段の授業で使用している遠隔教育システムを利用して、同時双方向型で課題の説明や質疑応答等の自習支援を行いました。
- ・入院等により学校再開後も登校することが難しい生徒については、引き続き病院等で同時双方向型による授業配信を受けています。



○北海道札幌視覚支援学校

- ・web 会議システムを活用して家庭科の実習をしました。生徒には使用する食材を家庭で用意してもらい、実際の授業では、教師が音声計測器を使用して見せたり、生徒の動作を確認したりするなどして適宜助言しながら活動を進めました。
- ・合奏の授業では、教師は模範を示すとともに、伴奏で個別に音程を確認したり、合奏をうながしたりするなどして適宜助言しながら指導を行っています。



○愛知県立大府特別支援学校

- ・校内の初任者研修の一環として、web 会議システムを活用した授業づくりを実施しました。画面の切り替えや画像の映り、プレゼンテーションソフトで作成した教材の提示など web 会議システムの機能を有効に活用した遠隔による授業について研修を行いました。



○埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園

- ・中学部や高等部の生徒向けに、家庭でできる運動の動画を作成し、配信しています。手話を交えて解説をする教師が登場し、字幕も挿入して、分かりやすくしています。



9. 医療的ケアが必要な児童生徒等への対応

【学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル（令和2年6月16日）】（抜粋）

（1）医療的ケアを必要とする児童生徒等や基礎疾患等がある児童生徒等

医療的ケアを必要とする児童生徒等（以下、「医療的ケア児」という。）の中には、呼吸の障害がある者もあり、重症化リスクが高い者も含まれていることから、医療的ケア児が在籍する学校においては、主治医の見解を保護者に確認の上、個別に登校の判断をします。その際、医療的ケア児が在籍する学校においては、学校での受入れ体制も含め、学校医にも相談します。

（1）学校において医療的ケアを実施する際に留意する事項

「学校における新型コロナ感染症に関する衛生管理マニュアル」を基本としつつ、学校において医療的ケアを実施する際は、以下の事項について留意すること。

（登校の判断）

- ・医療的ケアを必要とする幼児児童生徒（以下「医療的ケア児」という。）については、主治医の見解を保護者に確認の上、学校が登校の判断をすること。

※ここでいう「主治医の見解」とは、①当該幼児児童生徒が学校で感染するリスクや、②学校で医療的ケアを行う際に、新型コロナウイルス感染症対策として特に注意しなければならない点などを指す。

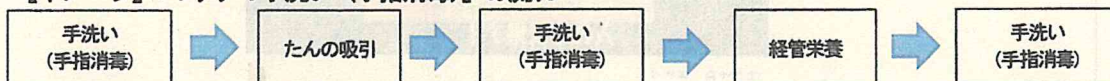
- ・医療的ケア児の登校に当たって、学校は事前に受入れ体制などを学校医等に相談すること。

（医療的ケアの実施）

- ・「1ケア1手洗い（手指消毒）」、「ケア前後の手洗い（手指消毒）」を基本とすること。

※ここでいう「1ケア1手洗い（手指消毒）」とは、例えば、同じ医療的ケア児に対して、たんの吸引と経管栄養を行う際、それぞれの医療的ケアごとに手洗い又は手指消毒を行うことをいう。

【イメージ】「1ケア1手洗い（手指消毒）」の流れ



※医療的ケアの開始時と終了時に、液体石けんと流水による手洗い又はアルコールを含んだ手指消毒薬による手指消毒を実施すること。

※医療的ケアの開始時に、手洗い（手指消毒）をした後は、自身の顔（目・鼻・口）や髪などに触らないように注意すること。また、医療的ケアの終了後に、手洗い（手指消毒）をする前に、自身の顔（目・鼻・口）や髪などを触らないように注意すること。

(保健衛生用品の確保)

- ・医療的ケアを行うに当たって、看護師等が使用する際に必要となる保健衛生用品（手指消毒用エタノールやマスク、使い捨て手袋、フェイスシールド、アイシールド、使い捨てエプロンなど）については、自治体や学校が用意すること。

※令和2年度補正予算においては、フェイスシールドなどを作成する際に要する経費についても補助の対象としている。

(2) 地域の感染状況によって、学校医等に相談の上、対応を検討する事項

地域の感染状況に応じて、上述の「(1) 学校において医療的ケアを実施する際の留意する事項」に加え、以下の事項の実施の必要性について学校医等に相談すること。

(医療的ケアの実施)

- ・特に、気管内吸引や吸入などを行う際は、使い捨て手袋、フェイスシールド（又は、マスクとアイシールド）を着用すること。使い捨てエプロンやガウンが準備できるようにあれば、必要に応じて、着用すること。

(排泄の介助等)

- ・おむつ交換の際は、排せつ物に直接触れない場合であっても、使い捨て手袋に加え、フェイスシールド（又は、マスクとアイシールド）、使い捨てエプロンを着用すること。

※ポータブルトイレを利用する場合の介助も同様とする。

(消毒・清掃等の実施)

- ・医療的ケア児が利用する教室等については、1日1回以上、湿式清掃し、乾燥させること。
- ・床に血液、分泌物、嘔吐物、排泄物等が付着した場合は、手袋を着用し、次亜塩素酸ナトリウム液（0.1%）等で清拭後、湿式清掃し、乾燥させること。
※次亜塩素酸ナトリウム液を含む消毒薬の噴霧については、吸引すると有害であり、効果が不確実であることから行わないこと。
- ・トイレのドアノブや取手等は、消毒用エタノールで清拭すること。または、次亜塩素酸ナトリウム液（0.05%）で清拭後、水拭きし、乾燥させること。

(3) 取組例

○愛知県刈谷市立刈谷特別支援学校

- ・医療的ケア（痰の吸引）を行う際に、看護師がフェイスシールドや使い捨て手袋を使用し、感染症対策をしています。



(参考)

- 「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル（令和2年6月16日版）」

URL : https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00029.html

- 「新型コロナウイルス感染症に対応した持続的な学校運営のためのガイドライン（令和2年6月5日）」

URL : https://www.mext.go.jp/content/20200605_mxt_kouhou02_000007000-1.pdf

- 新型コロナウイルス感染症に対応した臨時休業中における障害のある児童生徒の家庭学習支援に関する留意事項について（令和2年5月7日）

URL : https://www.mext.go.jp/content/20200507-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf

- 「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイントをまとめました（令和2年5月）

URL : https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_coronanettyuu.html

- 社会福祉施設等における感染拡大防止のための留意点について（その2）」（令和2年4月7日）厚生労働省健康局結核感染症課等

URL : <https://www.mhlw.go.jp/content/000619845.pdf>

- 「新型コロナウイルスに有効な界面活性剤を公表します（第二弾）」（令和2年5月29日）経済産業省

URL : <https://www.meti.go.jp/press/2020/05/20200529005/20200529005.html>

- 「宿泊施設における新型コロナウイルス対応ガイドライン（第1弾）」（令和2年5月13日公表、同21日一部改訂）一般社団法人日本旅館協会

URL : <http://www.ryokan.or.jp/top/news/detail/298>

- 令和2年度文部科学省第2次補正予算

URL : https://www.mext.go.jp/content/20200527-mxt_kaikesou01-100014477-000-2.pdf